

日本ユニシス株式会社

2009年3月期 第2四半期決算説明会(2008年11月7日開催)

主な質疑応答

(内容につきましてはご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正をしております。)

【業績見通しについて】

Q:業種別の受注状況を教えてほしい。

A:上期の受注高は前年同期比2.4%減少した。主な内訳は、金融では引続き需要が強く同5.2%増となったものの、電力・サービス関連では同8.8%減少となった。受注が減少した要因として、採算性を重視した案件の受注をしていること、前年同期に大型案件の受注があったこと、今年度からリスク回避の目的でサービスの契約単位を小口化していることが挙げられる。現時点の通期見通しでは、下期に大型の受注案件を予定していることもあり、昨年度並みまでキャッチアップできると見込んでいる。

Q:下期の需要トレンドをどのように見ているか。また、その需要トレンドが業績にどのような影響を与えるか。

A:下期環境に関して懸念がないわけではないが、現時点では通期計画は達成できると見込んでいる。

Q:上期の不採算は9億円とのことだが、下期はどの程度を見込んでいるのか。

A:現状を勘案すると、第3四半期での発生は抑えられそうである。第4四半期についてはリスクを勘案して、前年同期並みである5億円と見立てている。したがって、期初計画では通期で20億円の発生を想定していたが、現時点では通期で14億円の見通しである。

Q:工事進行基準の適用は、通期でどの程度営業利益の押し上げ要因となるのか。

A:上期での利益への影響額は4.9億円であったが、年度内に完了するプロジェクトが多いため、通期での影響額は1億円程度となる見通しである。

Q:今後のアウトソーシングの利益改善をどのようにみているか。

A:大型案件が順次運用開始となるため、来期以降の損益は改善する見通しである。

Q:来期の営業利益目標240億円に変更はないのか。

A:現時点での変更はないが、今後の状況を見極めた上で来年あらためて公表したい。

【事業戦略について】

Q:現状の景況感を考慮すると、この先数年間はITサービス市場全体が右肩上がりに拡大するとは思えないが、どのように考えているか。

A:不況になればコスト低減を意識してアウトソーシングへ移行する流れが加速するものと考えている。そのような観点から、ICTサービスに関しては必ずしも悲観的に捉える必要はない。ただし、世の中の急激な変化がどのような影響を及ぼすのか、正直見えない部分はある。

Q:サービス採算性の向上施策だけでは成長もいずれ頭打ちになり、どこかでリソースのボトルネックが顕在化すると見ている。今後のリソース戦略についてどのように考えているか。

A:当社の社員のみで全てを開発するのは不可能であり、国内外の協力会社を含めた全体での体制作りを重視している。協力会社のマネージメントが十分にできる人材を、いかに育成していくかが当社にとっての大きな課題であり、これを解決したときリソースに関する限界は解消できるものと考えている。

以上

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。